

令和5年度 見附市総合教育会議 議事録

○招集日時

令和6年1月12日（金）午後2時

○招集場所

見附市役所4階 大会議室

○会議に付した協議テーマ

5年後10年後の教育環境を議論する場の設置の必要性について

○出席者（6名）

市長 稲田 亮
教育長 渡邊 茂夫
委員 小林 弘武
委員 小倉 美砂子
委員 齋木 可奈子
委員 武田 信一

○関係者および事務局出席者

新潟大学教育基盤機構全学教職センター客員教授	遠藤 英和
教育部長兼教育総務課長	近藤 芳生
学校教育課長	佐藤 昌弘
こども課長	鈴木 浩
市民部長兼まちづくり課長	大野 務
教育総務課課長補佐	岩崎 済
教育総務課副主幹兼総務管理係長	山谷 一憲

○傍聴者（2名）

14時00分 開会

1 開会

事務局

定刻になりましたので、これより平成5年度第1回見附市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育総務課課長の近藤です。よろしくお願いいたします。それでは、次第に沿って進行させていただきます。

はじめに、稲田市長からご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

稲田市長

皆さんこんにちは。本日はご多用の中、総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、平素から見附市の子どもたちの教育の充実、発展のためにご尽力いただき、この場をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。

今年は元旦から地震が発生し、改めて地震はいつ起こるかわからないということを経験することになりました。幸いにして見附市は大きな被害はありませんでしたけれども、教育現場においても、子どもたちの安全安心を確保するための備えとともに、防災教育をきちんとしておく必要があるというように改めて感じたところでございます。

また、昨年、新型コロナも5類化されましたが、教育活動においてもまだコロナやインフルエンザの学級閉鎖がちらほら出てはございますけれども、ほぼ従来どおりに戻ってきたのではないかというふうに思っております。

今年からは海外との国際交流、今までやってきたダナンとの交流も来年度から再開しようという予定もございまして、子どもたちが様々な活動や体験を通じて、健やかに成長することを願って臨みたいところでございます。

さて、全国的にも人口減少、少子高齢化が進み、地方でその動向が顕著でございまして、見附市においても例外ではない中で、子育て世代に見附市に住み続け

たい、戻ってきたい、新たに住みたいと思ってもらえるよう、まちづくりを進めていきたいと思っています。

そのために必要となるのが、子育て支援ですとか教育であり、より一層力を入れて頑張っていきたいと思います。

まず、子育て支援につきましては、去年は屋内施設のプレイラボが完成し利用開始されたほか、コミュニティバスの中学生以下無料化、そして子育てママのための健康スマイルスタジオの開設、子育てしやすい職場作りや起業支援など、様々な取り組みに着手させていただきました。

現在、策定に向けて準備をしている子ども・子育て条例と併せまして、行政、市民、企業、地域が一体となって、子育て世代を支えていく気運を高めまして、パパやママが住むならやっぱり見附だ、となるようなことを市内外に広く発信していきたいと思っています。

また、教育面につきましては、「ふるさと見附を愛する子ども」、「世に役立つことを喜びとする子ども」の育成に向け、地域総がかりで児童生徒の育ちを支えているところですが、今年度からは、子どもたち自らが課題を発見、解決し、分析、判断を行い、何事にも積極的にチャレンジし、実行に移していくマインドや能力を身につけてほしいと考え、アントレプレナーシップの視点を取り入れた教育活動を推進するよう各学校にお願いをしているところでございます。「共創郷育」と併せまして、将来見附に戻って起業にチャレンジしてほしいという思いも込められているところでございます。

また、中学校の部活動移行についても、地域に協力を仰ぎながら、スポーツ文化活動の選択肢を確保する取り組みも積極的に進めております。今年度はソフトテニスと卓球が休日の移行を実施しましたがけれども、今後は他のスポーツですとか文化活動にも広げていくといったような考えでございます。

そして、この総合教育会議、昨年度につきましては少子化や学校施設の老朽化などの状況などの議論を踏まえて得られた、その結果を踏まえまして、教育環境に関して広く市民の皆さんの声を聞くタウンミーティングを実施してきたところでございます。

後ほど、本日ご出席のコーディネーターの遠藤先生からもご紹介、お話いただ

くことになってございますが、非常に有意義なミーティングになったというように私も聞いてございます。

本日の会議におきましては、そのタウンミーティングの結果の報告を聞かせてもらいながら、5年後10年後の教育環境を議論する場の設置の必要性につきまして、これを議題としまして議論させていただくことになってございます。

見附が将来にわたって、また、子育てママやパパに選ばれるまちとしていくためにも、そして、持続可能な市内の小・中学校の教育環境について教育委員の皆様との間で活発な意見交換をさせていただければというふうに考えてございます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 意見交換

事務局

ありがとうございました。それでは、3意見交換に移ります。

今年度の総合教育会議では、「5年後10年後の教育環境を議論する場の設置の必要性について」を議題とさせていただきました。昨年度の総合教育会議で、「見附市の目指すべき教育環境について」という議題で出席の皆様にご協力をいただき、全国的な少子化が進む中、見附市においては、小規模校の特色ある教育について一定の評価があるものの、将来の教育環境に対して不安の声も聞かれることや、中学校2校の老朽化が進み、施設の適正な維持管理が必要な時期を迎えるため、一部の学校や一部の地域だけでなく、市内全域において、5年後10年後、子どもにどんな小中学校で学ばせてみたいか、子育て世代を中心に市民の声を聞く場を設ける必要があるとして、今年度にタウンミーティングとして5回開催させていただきました。

今年度開催したタウンミーティングでいただいた市民からの声を参考に、5年後、10年後の教育環境を議論する場の設置の必要性について、総合的に判断してご協力をいただきたいと思います。

はじめに、今年度開催した5年後10年後の教育環境をみんなで考えるタウンミーティングについて、ファシリテーターとしてご参加いただいた新潟大学の遠

藤先生より、タウンミーティングの報告をいただき、続いて事務局からタウンミーティングでいただいた意見の概要について説明させていただきます。

その後に本日の議題について、皆様で意見交換していきたいと思います。

それでは遠藤先生、よろしく申し上げます。

3-(1)タウンミーティング報告

遠藤教授

初めまして。新潟大学の遠藤英和と申します。

今回、見附市のタウンミーティングのファシリテーターとして5回の運営をさせていただきました。今日はこの後、そのタウンミーティングの概要をお伝えするとともに、私見が多少混じりますが、要点と捉えた部分をあわせて報告させていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

パワーポイントの画面を見ながらお聞きください。

まず、見附市で考えようとしたテーマ、何度も出ているフレーズですが、5年後10年後の教育環境をみんなで考えるということです。私は最初、この文字を見たときに、5年後は既にわかっている、10年後は出生数から言えば、予想ではなく、既に予測ではない今の現実の投影が10年後だというように認識していました。

今はどこへ行っても人手不足です。この少子化時代で、それを悲観的に受けとめるのではなく、見附市が目指すべき教育環境がどうやればいいのかということを広く市民の皆さんを交え、そして市長さんをお願いしてお認めいただき子どもたちだけのタウンミーティングも行わせていただきました。小中学生約20人がグループになって、これから自分が思い描く学校の未来像について意見を出してもらいました。

10年先の教育環境をみんなで考えようというスタンスにより、広く意見、アイデアを取りまとめたという願ひのもと、タウンミーティングを行わせていただきました。

タウンミーティングの目的については、手元の資料のとおり成分化されており、今日はそれをこの場において報告するというのも一つ、大きな目当てとし

てやらせていただきます。

開催日時については、5回やらせていただいております、初回が9月25日、最終回が12月6日です。時間帯も曜日も5回とも全部違います。教育委員会との協議の中で、こういったいろんな機会を工夫して参加を呼びかけてみるのもいいのではないかというチャレンジでした。会場は、見附の公民館、武道館、プレイラボみつけ等を利用させていただきました。第4回だけが小・中学生限定の回でした。ただし、何ヶ校かの校長先生方が参加してくださいまして、改めて感謝しているところです。

開催形式については、私はファシリテーターを務めました。大事なことは、参加して下さった皆さんが、少なくともこの会議に参加してよかったという後味の良さを残してグループワークをしてほしいなという願いのもとすすめました。

グループワークを通して、これから先の夢とか希望とか、これは明るい話題ばかりではないのは当然承知なのですが、その辺を踏まえながらも、それは実現可能なのかも含めて、話し合いを一定時間内で深めていくという形をとらせていただきました。

グループ討議は概ね70分間という想定で行わせていただき、実際にはもう少し時間が伸びています。本来ですとファシリテーションは、2時間くらいかけてもいいかなとは思っていますが、前後の時間も大事ですので今回は70分間という想定で行わせていただきました。

当然、まだ面識のない皆さんがそれぞれグループを組んで行うということですので、私の方としてはグループの構成メンバーが打ち解けられるように、アイスブレーキングにも力点を置きながら進めたつもりですし、できる限り自分たちで話し合ったことを自分たちで整理して説明するという形を取らせていただきました。

参加した皆さん一人ひとりにとって、このグループワークはどうだったかを感想に入れていただきながらグループ討議をまとめました。

進め方についてですが、資料にあるとおり、この結果発表では特にグループの代表の皆さんから3分という時間の中で、グループで話し合ったことを模造紙に

整理していただいたうえで要点をかいつまんで報告していただきました。報告の様子を教育委員会の皆さんが写真に収めてくださっていましたので、こんな雰囲気だったということをお伝えしたいと思います。

そして、後ほど近藤課長の方から詳しく報告書の説明があるかもしれませんが、アンケートをとらせていただきました。私自身にとってすごく勉強になったという面が多々ありました。私は小学校の教員上がりなので、保護者の皆さん、地域の皆さんはこういう考えを開いてくださっているのだなということを感じたり、すごく新鮮なことが多々ありました。そんな中から、かいつまんで報告をさせていたいただきたいと思います。

まず、今回のタウンミーティングの開催意図の文面の中に、「広く」という言葉がありますが、実はタウンミーティングをやる上で、気が付かなかったことに気づけるようになったというのが最大の成果だと思っています。特に、教育環境と言ったときに、それは具体的には何を指すのかは非常に多岐に渡って存在すると思います。人的だとか、物的だとかというカテゴリだけでなく、いろんなものが存在すると思います。そういったときに、「広く」ということについて、あまり壁を作らずに、溝を作らずに話し合っていきたい。そんなことを感じながら進めました。

資料の2にある現地認識というところですが、私は見附市の教育を羨ましく思っていたところが多々ありました。例えば学校施設の老朽化の話であるとか、長寿命化の話は近藤課長さんからもお伺いしていましたが、見附市の特色ある教育と言われたときに、見附市の外から見ていた私には、例えば副読本「みつけ塾」の作成であるとか、「子育て教育の日」の開催であるとか、SDG'sの取組み等、先駆けて取り組んでいらっしゃる見附市だったということは、巨大な財産ではないかなというように今でも思っていますし、一方では、小規模校である田井小学校は国レベルの賞を何度も受けていますし、上北谷小学校は矢沢宰賞という創作詩の表彰について、これも何度も表彰を受けています。そして見附第二小学校は杉澤の森や鮭放流の活動であるとか。地域に誇りを持っている。子どもたち自身が自分たちの住んでいるところは日本一だという認識でいるということ、外部にいる私達に伝えてくれているという、そんな見附市でした。

市の意向として、この5年後10年後の教育環境をみんなで考えると言ったときに、そういう見附市であるがゆえに、特にファシリテーションにおいては、主役は参加して下さった全員であり、そこに中立、公平、平等とあるように、文科省の教育振興基本計画の中でも、特に資料の真ん中あたりに公平とありますが、英語ではエクイティと示しますが、本当の意味で公平というものを考えていく必要があるというところを大事にしました。

そして、場の一体感を作るということ。それからきちんとテーマやゴールを共有しながら進めるということ。それらを柱にしながら行いました。教育委員会の皆さんからサイドワーカーとして入っていただきましたが、安易に手を差し伸べるのではなく、わからないというのも立派な意見なんだということであるとか、批判的思考を差し込むとか、好意的に意見交換するとか、そういったようなことにご留意いただき教育委員会の皆さんからお手伝いをいただいてグループワークが進みました。

冒頭述べたように、ファシリテーションの評価としては、参加者の評価が一番で、それは、大きくは達成感であり、チームワークでありというふうに捉えていました。こうした形でのファシリテーションでした。

私としては、このタウンミーティングで話し合われた内容、皆さん方から出たグループワークでの話が、このタウンミーティングが果たす役割として、今後いろんところで、例えばコミュニティスクールのいわば論題として使っていただけたらありがたいと思うようなフレーズがあったものですから、それを私なりに拾ってきたところです。

資料の赤いところが伝えたい部分でもあるのですが、例えば、たった1人の意見かもしれませんが、大事にしたいと思ったものを赤字で示しました。

例えば、「小さな学校はいじめられると逃げ場がない」とかですね。それから、「夏休みや冬休み等、小学校4年生以上の子の居場所が不安である」。何回かやっていくうちにプレイラボという施設の存在が市民の皆さんには非常にうけており、誰もが好意的に「こういうのがうちの地域にもあったらいいのに」という声が寄せられていました。それはすごくよく覚えています。

それから、小規模校のことについて考える機会になったというような意見があ

りましたが、「学校規模とか、生徒数の均等化であるとか、それは目指すべきものなのだろうか」というような問い。そして中高一貫校のこと。それから、「学校がないと地域が衰退するとよく言われるが、本当にそうだろうか」という問い。そういうものも生まれました。

それから複合型施設をイメージしているのか「小中、幼小中の一体化とともに、そこに老人ホームを設置しては」であるとか、「小規模校のよさをなくしたくない」、「学区は自由に選びたい」というご意見。

それから授業環境では、「先生方も足りず人手不足だというのはわかっているが、いろんな形で指導して下さるといふ形を工夫することはできないのか」というような話し合いをしてくれたグループもありました。

それから、「障がいを持つ幼保園児を受け入れてくれる場が必要」というような意見や「放課後の過ごし方の選択肢が増えるといい」というような意見もいただいています。

統廃合については、資料にありますとおり、話し合いの結果としてそういう意見が出ているように思います。

いずれにしても、学校という存在は、子どもたちの社会性や協働性を培う場でもあります。学力の定義も国が示しているように、学びに向かう力であるとか、人間性まで含めたものを学力と称する時代になりました。それに呼応する対応が今後の学校環境には求められていると思います。

それから、解決策について話し合う段階で、「学区に基づかない統合もあるのではないか」という意見、それから「子どもが選ぶ、子どもに自己選択、自己決定させるという機会をどんどん増やしてほしい」というような意見、それからこれは私自身も耳が痛いですが、「時代は令和になっている。令和の子どもが学校にいるのに先生方は昭和っぽい」こういう意見も出ました。

選べる教育環境という点では、資料にメモを付けましたが、例えば学校選択の問題、学区の見直し、児童クラブの充実のこと、そしてコーディネーターの配置といったようなことが意見として出ておりました。

これは第4回の子どもだけの回についてですが、これは中学生のグループでしたが、「生徒が自分たちで決められる学校が、これからの学校にはいいのではな

いか」ということで、実はこの回だけは他のファシリテーションとは違って、大谷翔平選手が高校1年生のときにキャリアパスポートを作る際、「曼荼羅シート」というのを使ってやったんですが、それをちょっと説明し、活用して、小中学生から作成してもらいました。小学生はあっという間に柵が全部埋まるぐらいいろんなことを考えてくれましたし、中学生は、例えば自分たちが話し合うテーマをこういうふうに考えていこうかというように、結構地道に丁寧にやってくれました。

この生徒が自分たちで決められる学校というテーマに集約するために、例えばそこにある4つ、髪型の指定や制服がない学校、校則、生徒が主体の学校、家でも授業が受けられる学校、修学旅行の行き先を自由に決められる学校。こういったことが前段で出て、生徒が自分たちで決められる学校という中心テーマが決まったというところです。

それから、子どもたちの中から出た意見としては、「行事の多い学校」。やっぱりここには、子どもたちが行きたいと思う学校の存在が垣間見えた気がしました。

小学生のグループでは「動物がたくさんいる学校」というのも出ましたし、解釈は多岐にわたりますが「自由な学校」というのも出ました。

いずれにしろ、子どもたちにとって学校が夢や希望を持てる存在になるということを経験する場を通して、子ども自身がしっかり認識してくれたのではないかという気がしています。

最後に参加感想の声の中からですが、私自身もすごく「ハッ」としたこともありましたが、「そうだ、これは大事にしなきゃいけない」というようなことがありましたので、それらを抜粋させていただきました。

例えば、「学力も大事ではありますが、地域の人に大切に見守ってもらいながら伸び伸びと育つ環境こそが、ふるさと見附を愛する子どもの育成に繋がるのではないか、会を通して思いました」。ふるさと見附を愛する子どもの育成、これは見附市のスローガンでもありますので、大事にすべきかなというように思っております。

それから、少子化を悲観的に考えないということ。「少子化であることを利用

して、児童一人ひとりに応じたきめ細かい指導ができる体制を作ってもらえばありがたい」これは教育委員会、学校に課せられた課題になるかと思います。

それから、「保護者が自分のことだけではなく、地域全体の子育てに前向きになれるとよいと思いました（今の若い世代には難しいかな）」というようなコメントもいただいておりますが、こういう会に議参加してくださっている皆さんだけではなくて、こういうことがより広く啓発材料として繋がっていくといいのではないかと考えております。

それから、「せっかくこういう会議をやるのだから、行政関係の方（いろんな課の人という意味と思われる）からの出席があっても良かったのではないか」という意見もいただいております。

それから、「IT 社会になっています。ICT 教育が注目されているので、そういったことも視野に入れつつ、本物の体験に価値があると考えてるので、ぜひよそにはない豊かな自然を生かした教育、体験の機会をこれからも大事にしてほしい」という意見。

それから、「小規模校について、吸収合併すべきだと思っていたけれど、小規模校なりのメリット、存在価値がよくわかり、新しい価値観を得ることができた」という気づきですね。こういったコメントもいただきました。「小規模校を全てなくすのではなく、残すところは残し、子どもが選べるようにすべきと感じた」、「大規模校にも通えるよう柔軟に対応してほしい」といった意見もいただいております。

こういうようなところが、見附市のイメージキャラクターのミッケになぞらえると、私自身が「見つけた」ことであります。

以上で報告を終わらせていただきます。

事務局

ありがとうございました。

ただいま遠藤先生から、タウンミーティングについて報告していただきました。

3-(2)タウンミーティングでの意見等

事務局

続いて、タウンミーティングでいただいた意見の概要について事務局から説明いたします。

詳細につきましては、お手元にある報告書の12ページ以降に各会議でいただいた意見を、31ページ以降にアンケートでの意見等を掲載していますが、主な意見の概要について説明いたします。

1つ目、社会環境についてです。

少子化の進み具合に驚いたという意見を多くいただいております。「少子化が進んでいることは何となく知っていたが、実際に数字で説明されると、思った以上に子どもの数が減っていることを知った」という意見が多く聞かれました。

また、「複式学級って何」というような、問題意識に地域的な差があるということがわかっております。

ライフスタイルの変化に伴い、共働き世帯が増えたためか、小学校高学年から中学生にかけての世代が集まる居場所とその移動手段について意見が聞かれました。

他には、「学校間や世代間において、子どもだけでなく、保護者同士で交流することができる場、地域との繋がりの方が欲しい」という意見が聞かれました。

2つ目、登下校についてです。

バス等の登下校の手段や通学路の整備を進めてほしいということで、「スクールバス配備」、「コミュニティバスの活用」、「通学路や登校班の集合場所の整備など、季節を問わず安心できるようにしてほしい」という意見が聞かれました。

また、「バスを回遊させることで、学校を統合しコスト削減できるのでは」という意見も聞かれましたし、「バスを活用することで、保護者にも迎えの負担を軽減できるのではないか」というような意見がありました。

登下校の手段として、スクールバスについての意見は、学校統合の際の登下校の手段の他に、熱中症対策や防犯対策、学校行事での利用など、とても多くの意

見が聞かれました。

3つ目、教育環境についてです。

「地域の特色を活かした地域の伝統や文化の継承といった観点から、地域の特色を大事にしたい」という意見が聞かれました。

また、「特色ある学校づくり」、「ある分野に特化した学校づくりを進めてはどうか」という意見がありました。

先ほどお話のあったように、「公共施設などと複合化した学校づくり」というような意見もありました。

4つ目、教員等の人材についてです。

児童生徒数の減少で学級数の減少が進むと教員数も減ることについて、専門外指導の教員が出ることに対する不安や、統廃合で教員を増やす、もしくは市が独自に教員を追加配置するなど、いろいろな意見がありました。

また、不登校や特別支援学級の児童生徒が増加していることに対する教員の負担軽減として、「スタッフの増員をしては」といった意見も見受けられました。

5つ目、部活動についてです。

部活動については、「少人数でできない種目など選択肢を広げてほしい」といった意見や、「地域移行に伴う送迎に関する課題」等が聞かれました。

6つ目、施設についてです。

老朽化が進んでいる施設に対する不安や「人口減少の中で、このまま改修をしていいのか」、「統合で新しい施設に集めたらどうか」、「他の施設を利用できないか」など、様々な意見が聞かれました。

7つ目、学校規模についてです。

大規模校と小規模校、それぞれのメリット、デメリットについていろいろな意見が聞かれました。「大規模校のいいところもあるし、小規模校のいいところもあるので、それぞれいいところを活かしながら学校づくりを進めてはどうか」ということで、ご覧のような様々な意見をいただいております。

8つ目、学校配置についてです。

「統廃合で学校規模を確保し、よりよい学校環境を目指してほしい」、「小中、幼小中、中高などの一貫校を設置してはどうか」といった意見や、「統廃合

で小規模校をなくすことには反対」といった意見なども聞かれました。また、「人口や児童生徒数の偏りに応じた学区の再編が必要ではないか」といった意見や、「学校選択制を導入して、学校の特色や子どもの個性に合わせて選択できる」といった意見も聞かれました。

以上、主な意見について紹介させていただきました。

また、アンケートでは、タウンミーティングについての意見もいただいております。

「市民の声を聞く素晴らしい企画だと思います」、「普段話すことがない他の地区の人の話を聞いてよかった」、「参加して良かった。今後もこのような会があるといいです」、きっと先生のお力添えのおかげでしょうか、概ね高評価をいただいております。

その一方で、「案内チラシが硬すぎる」、「もう少し目的がわかるような案内でないと参加しようと思わない」、「もっと参加しやすい時間設定にして欲しい」など、いくつか課題もいただいておりますので、今後改善していきたいと考えております。

以上でタウンミーティングについての報告を終わります。

3-(3)協議（議題）

事務局

それでは、意見交換に入ります。

まず、実際にタウンミーティングにご参加いただいた小倉委員から、タウンミーティングについての感想や、ご意見等をいただけたらと思います。

小倉委員

私は2回参加させていただいたんですが、最初から最後までいられたのは1回だけでした。私が参加したのが3回目と5回目の会議でしたが、報告にあったような意見は、大体参加したどなたかがもう出していたかなというところなので、今回参加されなかった保護者の方たちも概ね同じような意見を持っておられるのかなという感想を抱きました。

やはり案内、周知の方法について、説明の最後に近藤課長さんの方から報告がありました。やはり行政側から発信はすごくしているんだけど、何か参加しづらいっていうのか、やっぱり堅苦しいイメージを抱いていたのかなっていう感じがありました。

でも、集まっていざミーティングというか、話し合いが始まると、ざっくばらんにいろいろな意見が出たりして、茶話会的な場の雰囲気だったのはすごくよかった。言いたい意見はまだまだあって、時間が足りない感じの保護者の方が多かったように思います。

ある脳科学者が何かで、私がちょっと見て気になっていたところなんです、男性側の意見、女性側の意見の特徴についてですが、男性サイドは割合社会全体の中から自分の子どもの居場所を探っているような、女性の場合は自分を中心に考えて自分の子だったら社会に出てどうだろうか、というようなことを考えるといったようなことを聞いたことがありました。今回のタウンミーティングの男女比は、はっきりわからないんですが、結構お父さん方もたくさん参加してくださっていて、学校のPTA活動など、最近はやっぱりお父さんの方も家事育児に参加する男性が増えてきたのかなという感じがします。それで、男女いろいろな意見が出て良いタウンミーティングだったのかなと感じています。

やはり印象的だったのは、見附に移り住んでこられた方がいらしたことです。どうやって見附を選んでくださったのかというところまで掘り下げて聞けなかったのですが、数ある市町村の中から見附を選んだ方は、どういう魅力を感じて見附に移り住んでこられたのか、今でも一番気になっています。

若い方なので、これから子どもを育てていく環境の良いところをまず選ばれたのかなと思って、今まで見附市がやってきた子育て政策に関して、やはり共感を持ってくださる方が世の中にはいらっしゃるんだな、というところは感心したところですが、見附に住んでいる方たちの意見を聞くと、やっぱり小規模校の人は小規模校なりの悩み、大規模校の人は大規模校なりの悩みなどがあるということが聞けたので、先ほどおっしゃったように、やはり少人数の意見だからとってないがしろにするのではなくて、1人の意見でもやっぱり耳を傾ける必要が今後もあるのではないかなと感じました。

事務局

ありがとうございます。

それでは、同じくタウンミーティングにご参加いただいた齋木委員から一言いただけたらと思います。

齋木委員

私は2回目と3回目に参加させていただきました。

私も緊張して行きましたし、周りの方も始まる前はお互いに牽制し合うような雰囲気もありました。でも、遠藤先生に場を和らげていただいて、そこから話し合いが始まった後は、とても意見交換が進み、終わった後は、小倉さんがおっしゃったように「もうちょっと喋りたかったかも」とか、「もう少し長くてもよかったかも」と思えるような場であったことは周りの皆さんもおっしゃっていたので、皆さんそう思っていただけ、そういう機会だったんじゃないかと思っています。

ですから、このスクリーンに映されている議題を見ると、もちろん設置する必要があるでしょう、というところが私の考えではありますが、最初の入り口がとても緊張します。タイトルなのか、市からお知らせが来ているからか、学校から来ているからなのか、参加される方もPTAで学校に多く顔を出しておられる方が中心だったので、そうではない人もすくい上げるような、もう少し違う発信の仕方、もう少しちょっとびっくりするような、引き付けるハッとするような入口だと良かったと思いました。今回のタウンミーティングだと「教育環境を考えましょう」ということでやんわりしているんですが、でも、中に入ってみると内容は結構深刻だったりすると思うのですよね。

ただ、やっぱり最初の入り口ではそれをやんわり知っていた方がいいと思うんですが、やんわりしていると、やっぱり通り過ぎてしまう。キャッチーで若い世代の方も「えっ？」というような最初のきっかけが、今回とはまた違った形で発信できて、そして議論する場が設置されるようであればいいなと思いました。今回も参加した皆さんには本当にプラスになったと思うのですが、「教育環境のこう

いうところにいいところあるよね、でもこういうところは問題だよね」と話し合ったことにプラスの気持ちを抱いていらっしやったと思うので、議論する場はもっと必要だと思いますし、その皆さんを惹きつけるための方法が、もう少しいろんな角度からできないか探る必要があるかもしれないとも思いました。

中に入って私も言いたいことは申し上げたのですが、私は学校の中の教育のプロではないので、やはり学校の中のプロの先生方や教育委員会の皆さんから見たら、「それは」という部分の意見もあったと思うので、そういう現状も知れるような機会も市民にとっては必要だというふうに思いました。

事務局

ありがとうございました。

それではタウンミーティングの報告について、質問なり感想なり何か聞いてみたいことはございませんでしょうか。小林委員いかがでしょうか。

小林委員

私は出ることはなかったのですが、今日改めて具体的にどのような形で行われたのか聞かせていただいて、遠藤先生は現在の投影が10年後であるとおっしゃいましたけれど、やっぱりその辺りの基本というものを踏まえて踏み出していけないと思いました。この場はこの場として私は素晴らしいことだと思います。ただし、出てくる内容は総花的であるし、甲論乙駁、こちらにもあちらにも利のあることで、そうだよ、となって、今の段階はそれですよ。

ですから、それをさらに深めていって現在の投影である10年後を立派なものにしなければならないわけで、それをどう踏み出していくかを考えていくための、そういう教育環境を議論する場の設置というところへ落とし込んで、踏み出していかなければならないというように思います。

テーマもすごく大きいし、しかも相当の具体性を持って動かしていけないと形になってこないのです、正直言って月1回の教育委員会の会議では、とてもじゃないが収まらない、収めてはいけない話でもあるし、とても必要性も高まる話題であることはもう間違いないと思うので、ぜひそうやって踏み込んでいけるような

体制づくりというのを考えていかねば、そういうふうに思います。

事務局

ありがとうございました。武田委員いかがでしょうか。

武田委員

私もタウンミーティングには参加できなかったんですが、以前PTAの役員もさせていただきましたから、こういった内容に近い会合にも参加させていただいたことがありました。その場に集まるメンバーはやはりPTAの会長以下役員の方というのがほとんどだったので、そのときのことを思い出して感じるのですが、この内容は、子を持つ親はみんな知っていていいんじゃないかと思うので、集まった方は確かに頂いた資料を見るかもしれないけれど、それを隣の家の方に広げるかという、なかなかそうはならないと思うのです。その場では、おそらく新しい情報を頂いて、「見附の将来はこうなのか」という感じで帰られると思うのですが、その話がどこまで広がるかということそんなに多く広がるということはないだろうと感じます。そのときは一生懸命考えるのですがね。

皆さんやっぱり日々の生活に追われている部分もあるので、「5年後10年後がこういう状態になりますよ。皆さんも一緒に考えましょう」ということは、日常的に保護者のもとに資料が届いてもいいのではないかと感じます。

完成された資料じゃなくてもいいと思うので、「現状はこうですが、今後さらに、少子化が思ったよりも進んでいます、問題です」となったときなど、タイムリーに皆さん考えていかないとと思います。問題であることを数年後によく知りました、では済まないと思うので、もう5年後10年後はほぼ確定の未来になっていると思うのですが、少子化などの棒グラフを見ると危機感すら覚えません。私達が小学生の頃なんて大勢いて4クラスありましたから。そのときはいろんな問題も起きたのでしょうけれど、先生も志を持って児童生徒の対応にあたっていたので、いい時代だったのかもしれないですけどもね。少子化になると、そういう時代ではなくなるのだから、というのがひしひしと伝わってきて、私自身はやっぱり不安でいっぱいです。

タウンミーティングの資料を事前にいただいたので、内容を読ませていただきましたが、子どもの回の子どもたちがやった内容を見るとすごく微笑ましく、希望にあふれた内容がいっぱい出てくるので、すごくいいなと思って見ていました。

大人が出す意見というのは、子どもたちのことが心配なので、やはり問題を何とかしてほしいという、そういった内容が多いですね。だから、子どもたちの持っている希望と、大人が心配すること、お互いの折り合いがついた部分、重なる部分など、対応できる部分を少しずつでも対応していくような形をとっていくのが現実的なのもかもしれないと思います。どうしても予算であったり人員であったりと、いろんな面で実現できない意見も多分いっぱいあったと思いますが、やっぱり子どもたちが希望することと大人たちが心配することの重なる部分、近い内容に方向性を付けて、ひとつずつ小さなことでも解決していったらいいのではないか、というようなことを感じながらこの内容を読ませていただきました。

参加できなくて申し訳なかったのですが、また今年度もあるようであれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。

稲田市長

ひとまず、ここまででコメントさせていただきます。

教育委員の皆さんから一人ひとりタウンミーティングの結果に関してコメントをいただきまして、ありがとうございました。

小倉委員と齋木委員につきましては参加されたということで、本当に雰囲気良かったということを書いていただき、まず良かったと思うと同時に、もっともっと参加しやすい雰囲気。これがなかなか難しいのですよね。多分、市もかなり悩みながらやってこんな感じだったと思うので、次に設置したい会議というのは、これとはまた別ですが、ただ、こういう場があった方がいいということについては、やっぱりなるほどと思いました。

この5年後10年後の話は、この会議の話置いておいたとしても、さっき学校を通じて知ってもらうという話もあったかと思うのですけれども、広報みつけとかそういうものを使うのかどうか、そういったことも含めて、そういった現状

みたいなことを、保護者の皆さんあるいは市民の皆さんに伝えていくとか、あるいはそういった議論に参加しやすいような雰囲気をつくるということについては、これからも続けてやっていきたいというふうに思わせていただきました。

この後議論になろうかと思いますが、教育関係を議論する場の設置という意味では、先ほど小林委員も言われましたけれども、より具体に入り込んでいかなければならない。適正配置や学区見直しなどというところまでしっかりと議論していく場。それが必要かどうか。後でまたご意見をいただきますけれども。

武田委員からも、いわゆる子どもの意見と大人の意見の課題という言葉いただきました。おそらく次に、もし設置するならばこの議論する場というのは少し大きな話になろうかと思いますが、多分、武田委員が言われたとおり、普段の教育活動の中でつまんでいけるというか、この中で出てきた意見を少しずつやっていけるものもあろうかと思いますが、そういった意識で今回のタウンミーティングの報告書の結果も捉えていければいいかなというふうに聞かせていただきました。まずはありがとうございます。

教育長からも何か。

渡邊教育長

市長の話のとおりなのですが、すぐに対応できることをやらなければならないという部分もたくさんあったと思います。校長会を通じながら、このタウンミーティングでどんなご意見が出たとか、あるいは子どもたちからこんな意見が出たということについては、お知らせしておりますし、今後、教育委員会のホームページ上でも近々公開する予定ですので、ぜひ有効活用してほしいと願っています。

武田委員がおっしゃるように、学校の先生方と、子どもたちと、そして保護者の皆さんと一緒に考えていく。そこで解決できるものと、解決できないもの、もっと大きな視点で考えなければならない問題も当然ありますので、その点については、小林委員がおっしゃったような形で議論を進めていくということが必要になってくるのではないかな、というふうに受け止めました。

事務局

ありがとうございました。

それでは、このタウンミーティングで出た意見の中で何か気になったフレーズであるとか、もう少し聞いてみたいというようなことはありますでしょうか。

武田委員

参加者のご意見の中で、学校を自由に選べたらいいっていうようなご意見がいくつもあったと思うのですが、最初の方で遠藤先生もおっしゃいましたが、小規模校だといじめがあった場合に逃げられないというご意見があったという話のとおりで、そういった他に転校ということも考えるのだろうと思います。自由に学校を選ぶというのは、現状、即対応可能なのか、その辺りを少しお聞きしたいです。

渡邊教育長

それについては学区外就学基準というものがありますので、それに照らして、ご要望いただければ対応するという形がとれます。

ですので、ご心配いただいているように、ずうっとその学校にという形で、それが固定している、固定的に捉えているということではないところがございます。ご相談に応じながらというところです。

武田委員

自由にというわけではなく、ある程度理由がある中では対応できることも、ということですね。

渡邊教育長

はい。そうですね。現状はそういう基準に基づいて、ということになります。

稲田市長

その中で自由にという意味では、見附市については、みつば3校につきまして

は、普通ならなかなかほとんどの自治体ではそう自由にはしていない中でも、オープンスクールにより自由に大規模校の学区の方が小規模校に行けるような形にはしているといった現状でございますので、そういったところが、もし今後議論をするのであれば、いろんな議論が出てくるのではないかと思います。

武田委員

さっきのご意見ですと、その小規模校で、もしいじめに遭った場合という話だったものですから、そうすると、今回のみつば3校から逆に大規模校に転校したいという話が出る可能性もあるのかと思ひまして、それで少しお聞きしました。

渡邊教育長

いじめといった問題については、その対応は現状柔軟にやっていますけれども、大きい学校で学びたいというそれだけの理由では、現状は対応していないというところもあります。ご意見として出たものは、「うちの子は例えば大きい学校の方が力を発揮できそうなので、そっちに入りたい」というような意見もぜひ認めてほしいということだと思ひるので、それについてはまた今後議論していく余地はあるのではないかとはいっています。

事務局

タウンミーティングの中で結構出ていたのが、例えばよくあるのは、「部活動が他の学校の方が活発なのでそちらに行きたい」といったことですね。

いわゆるママ友なのでしょうね。「あそこの学校はちょっと」というような噂で「いや、こっちに行きたい」といった、そういうことはできないのかというような意見は今回の中でいくつかありました。

ただ、教育長の言われるように制度上はそういうふうにはなっていないので、何か理由があれば認めることはあるのだけれども、今は自由に選べるというようなものではないというところです。

小倉委員

私が参加したタウンミーティングでは、小規模校の方はすごく強調しておられたのですが、自分の子が小さなコミュニティの中にいると、社会性が身につかないのではないかというのを危惧されていました。だから、今すぐにでも大規模校に行かせたいというような親としての意見を持っている方が、小規模校の中には多いのかもしれないと思いました。

多分、一番懸念しているところは複式学級になるところかと思います。子どもの成長に合わせた学びが確保できなくなってくる。例えば1・2年生の複式なら1年生は2年生の勉強をしてから1年生の勉強をまたやる、といった逆転が生じたりする。

同じ学年同士の関われる友達が少ない分、上下問わず全校生徒が仲良くなれるというメリットはあるかもしれないが、今はきょうだいも少ないので、縦割り活動という部分ではいいのかもしれないですが、やはり学びの環境が一番危惧されているのではないかというように感じています。

それなら統合して大規模校に通えばいいじゃないかということになると、やはり私は、小中学校の子どもたちには極力自力で登下校とも歩いて、夏の暑さも冬の厳しさも体験させたいと思っています。でもそれが4キロ、5キロも歩けというのはなかなか酷なことで、去年のような猛暑の中ではまた心配事が多くなるし、ゲリラ豪雨も最近はすごく多くなってきているので、そういう登下校の安全確保という意味でスクールバスや送迎とかの問題はすごく大切になってくるのかと思います。そういうところも議論していかないといけない大切な部分かと思えます。

最近、市長さんが夜のデマンドタクシーに関する取組を発信されていたのを見ました。大きなバスではなくて、コンパクトな人員移動の方法などを考えていただけるといいのではないかとも思ったのですが、なにせ人員確保、運転手さんがいないことには、この学校統廃合のことなどのいろいろなことに結びつけていけないのではないかとも思いましたが、いかがですか。

稲田市長

最後の部分、移動手段についてコメントさせていただきますと、やはりご指摘

のとおり、今、これはもう全国的なことですが、運転手不足という問題があります。全国各地の自治体で交通機関、タクシーもそう、スクールバスの運転手などもそうですし、なかなか確保できないというところがございます。見附市も何とかギリギリやれていますが、このまま何も手つけなかったら将来的にはもっと減らざるを得ないということをお聞きしているような状況にはあります。

これはやはり黙って見過ごしていくわけにはいかないと思っていますので、移動手段の確保については本当に重点的にやっていかなければならないし、これをどのように確保していくのか大きなテーマとしてやっていきたい。

今後の議論がどうなるかというのはともかくとして、移動手段、安全確保というのは本当に大事になってくるので、そこはしっかりと確保できるような形を考えていかないといけないと思います。

一方で、見附市はこれまで健康のまちとして、比較的歩いてもらうという部分もありましたので、そういったところとの兼ね合いも含めて、どの程度まではやっぱり歩いてもらうとか、でももう少し動かないといけない人たちはどうするか、子どもたちはどうするのかといったところまで、いろいろ総合的に議論をしていかなければならないというふうに思います。

事務局

小林委員は何か気になるところはありますか。

小林委員

学区を超えて学校を生徒に選ばせたい、生徒が決定する学区といったような話題が出てきましたけれど、オペレーションとしてそれが可能かどうかわかりませんが、最近のいろんな流れを見ると生徒が決定するということが多くなっているような形の情報も目にしていますので、可能か不可能かはまだ検討の余地があるでしょうけれど、そういうことも必要になってくるのかもしれないと、ちょっとそう思いました。学区に限らず、いろんなことについて生徒が決定していくという場面も出てくるのかもしれないという気もしますので、その辺の選択肢が用意できるのかどうかは、いろんな面で考えていくことが有用であると思います。

渡邊教育長

そうですね。こども基本法の中でも、とにかく子どもの意見をしっかり受け止めていくというのが、今求められていることでもありますので、子どもたちの意見をいかに反映させるか、また、それを受け止めて大人がどういう選択肢を準備できるか。そこは本当に大事にしていかなければならないところであると思っています。

ただし、どこをどういうふうに変換させるのか、子どもの意見をどこまでどう取り入れるのか、というようなことについては、これも子どもたちとともに話し合いを進めていかなければならないところであると思いますので、折り合いをどうつけていくか、一緒になって考えていかなければいけないと思います。

稲田市長

私自身も、選択できるということは本当に大事だと思います。

一方、施設の条件、財政条件、教員の条件であるとか、どこまでやれるのかといったところも含めて、次のステップに進むのであれば、そういったところも議論していかなければならないと思います。

事務局

武田委員は何か気になったフレーズやご意見など、いかがでしょうか。

武田委員

タウンミーティングでは、それぞれの学校を特色化するというような内容のご意見がありましたが、個人的に思ったのは、部活動の地域移行が今、どんどん進んでいると思うのですけれども、例えば、何部はこの中学校が担当とか、中学校で担当部を持って、1つに集約してしまっていく方法もいいのかと少し思いました。そうすると移動手段の問題なども出てくるのですけれども、でも先生の負担軽減とか、部活動が得意な先生もいらっしゃるとも思います。そうすると先生の配置にも影響するかもしれませんが、なんとかうまくまとめていく方法もある

のではないかなとか、可能かどうかは別としてですが、個人的にはちょっとそう思います。

稲田市長

部活動の地域移行の関係については、今後の教育環境の議論とはまた違った形で今もう進んでいる話であります。これについて私がいろんなところで言っているのは、部活動を動かすのを地域にお願いするというよりは、地域での受け皿をしっかりと確保していきましょうということを主体として議論をやっていきたいというふうに思っています。

ですから、部活動は全部どこかの地域で受けなければいけないなどということとは全然ないと思いますし、いろんなスポーツや文化活動を今後やれるところからしっかりと地域で受け入れる、地域でやっていく、その結果として職員の働き方改革に繋がっていけばいいなという思いでございます。

基本的には4つの中学校がありますが、何ヶ所でやるかというのは活動によって変わるとは思いますけれども、例えば、市内1ヶ所でやったら、全部の中学校がそのスポーツをできるようになるという部分もありますので、今まで部活動がなかった学校、例えば野球やサッカーはないところがありますけれども、もしこれがしっかりと地域で受け入れられるようになれば、どの学校の生徒であってもその活動に参加できるというようなことになるのではないかと考えております。

まだ今年の休日の地域移行の一部のスポーツからだけですけれども、少しずつ進めていきたいと思っております。

事務局

何か他に聞いてみたい、ちょっと気になるといったことなどがあればお願いします。

齋木委員

いろいろな特色ある学校づくりを、というような意見がありましたが、実はもう特色ある学校づくりをしているのだけれども、保護者まで伝わりきれていない

部分もあるのではないかと感じました。

私はいろいろな小学校、中学校の子どもたちと話をするので、そうすると「この小学校はこんなことをやっていて、こっちの小学校ではやっていないよ。いいなあ」とか。そういうことは子どもたち同士の話を聞いていると結構あります。既に特定の小学校でしかできないことをやっていて、ただそれが、普段の学習活動の中で流れていっているもので、周りからしたらすごく魅力的だけど、自分たちにとっては当たり前というところ、そういう教育環境を武田委員がおっしゃったように、もっともっとどんどん発信するといい。そうすると、「なんだ、うちの小学校ってこんなにも特色があって、こんなに面白いことをしていたのか」、「学習活動の一環だけど、これって他の学校ではしていなかったんだ」ということがわかり、「うちの学校は特色あるね」という雰囲気はまずは保護者から地域に、といったように広がっていけるような、何かそういう機会があると5年後や10年後をプラスに見つめることもできる。同時進行でそういうこともしていくというのは結構大事なのではないかと思いました。

渡邊教育長

ありがとうございます。そのとおりであると思っております、スクールアカウンタビリティがそのひとつだったはずなのです。

アカウンタビリティの催し方を今年度は変えましたけれども、それを個人的にはもっと子どもたちにも見て欲しかったというように思いますし、子どもたちにどう伝えていくのかという部分も大事にしてほしいと思います。

ですから、今学校でやっていることをしっかりと捉えて、価値を付けて、発信していくというその取組は、スクールアカウンタビリティを中心にしつつも、今後どう充実させていくかを考えていかなければならないですし、それは大きな宿題だと思っています。

稲田市長

確かにまだまだ知らない方が多いですね。本当に、一生懸命に特徴的にやっていますけれどもね。

齋木委員

比べるわけではないですが、他の学校を知らないから自分の学校にしかないことだと気づけない。そういうのがちょっと惜しい気がしています。

稲田市長

逆に、簡素化も兼ねて、他の学校のことを聞けないタイプの開催にしちゃったのですけれどもね。その代わりに、皆さんが参加しやすいような形として、スクールアカウントビリティについては各学校という形に変えました。その方が参加しやすいだろうと考えました。今までは参加率が悪かったのも、そういった意味では良かったのですが、逆に、他の学校は聞けなくなっているのですよね。

武田委員

動画は他の学校のも見られますね。

稲田市長

そうですね。動画で見てもらうだけでも十分ですね。

渡邊教育長

その時間を今後は学校でどのようにとっていくか、保護者の皆さんにとっていただくか、今回の形で言えば、そういったことがこれからの課題かなというふうに思っています。

当日にやったものを子どもたちにも一緒に見て欲しかった、見せたかったというご意見もあり、私もそのとおりであると思っておりまして、学校にはそういうことも今後考えてほしいと思い、そのように伝えています。

事務局

それでは、タウンミーティングでいただいたご意見を踏まえて、見附市の5年後10年後の教育環境を議論する場の設置の必要について、意見等をいただきました。

いと思います。

稲田市長

先ほども出ましたが、大事な議題のところですよ。ご意見やコメントがあればお願いします。

小林委員

先ほどもお話ししましたが、結局はもう、やらざるを得ないと、皆さん大体そういう感想を持たれたのではないのでしょうか。

今回人数がそんなに多くないにしろ、出席した方は少子化の影響がこんなに進んでいるとは思わなかったですとか、いろんな意見を聞かせていただくと、やはりそういう議論の必要性というのは、皆さん納得されるのではないのでしょうか。それはもう、はっきりそういうふうに私は思いますので、あとはその議論の場の建て付けをどうやっていくのか、どういう話し合いの場にしていくのか、というようなところに持ち込むということで良いのではないかと思います。

小倉委員

タウンミーティングなどに参加された方たちは、自由に意見を述べておられたと思います。

最近はPTA活動などもすごく限られてきた気がします。子どもたちの活動も全市をあげて取り組むということが、例えば小学校の陸上や水泳大会、音楽祭など、そういった市全体としての活動の機会を設けていくことは大切で、やはりそこに保護者がどう関わっていくかが問題なのではないかとも考えています。

PTAの活動自体は、今はもう役員の活動みたいな思われ方をしているように感じます。代表者の活動のように思われている気がしてならないのですが、やはり自分の子が通っている学校でどういう活動をしているとか、やはり最低限、親同士が繋がってタッグを組んでやっついていかないと、無関心な人は無関心のままで終わってしまうのではないかという感じがするので、発信すれば、この少子化に関する数字はすごく大変なこととして受け止めていただけたらと思うので、発信

方法をもっと考えていくというところも大切かと思います。

最近始まった見附市のLINEによる情報提供ですが、もう強制的に情報が入ってくるので「何かな」という感じで必ず見ると思います。広報誌で見るというのも大事かもしれませんが、些細なことでもそういうふうにして、1日に3回朝昼晩と通知が来ればうるさいと感じるかもしれませんが、週1回とか、そういう形で教育関係のことも保護者向けに発信していくとか、今は子どももスマホを持っている時代なので、子どもたちも巻き込んだ発信をしていくとか、最近のツールをうまく活用した情報発信のやりかたをしていけばいいかもしれないと考えています。

稲田市長

LINEには教育部門だけの発信というのはありましたかね。

事務局

「子育て情報」や「生涯学習」のカテゴリはありますが、広く「教育」というのはなく、主に子育てという設定です。

稲田市長

子育ても子どもも教育だから一緒でもいいと思います。そのカテゴリの中に教育もセットでいいわけですね。

渡邊教育長

スクールアカウントビリティはLINEで発信しましたね。

稲田市長

もうちょっと教育の内容をその子どもカテゴリの中に入れて込んで発信できるものがあれば、LINEを使って発信したらいいのではないかというご議論だと思うので、それはそれでやっていけばいいだけですね。

小倉委員

やっぱり若い保護者の方たちは必ず見ますのでね。いや、「必ず」かどうかはわからないけれど、おおよそ、たぶん見ると思います。

稲田市長

これはまた、出しすぎないようにすることも大事で、あんまり多過ぎるとよくなくて、それをコントロールしている人がいて結構うまくやっていただいているのですが、子ども子育て関係であるとか教育関係のものはひと区切りにして、その中でバランスすれば十分できる。他のところは情報入手しないようになっているのであれば。トータルで広報担当が管理しているのですかね。そこの在り方は考えていかなければいけないですね。

齋木委員

その議論する場の設置は必要だと思いますし、今出されたSNSというか、LINEツールによって、思い切ってつぶやいた意見ももらってしまうくらいのところもやってもいいのではないかと実は密かにずうっと思っていました。「子どもたちの教育に関してこう思っている」というのを市の方につぶやけるような。

もし本当にそうすると、多分マイナス（「ネガティブ」の意として）の方が多いたと思うのですよね。プラスよりマイナスだとは思うのですが、それくらいのことやって、そこから取捨選択していくというところがすごく大変だとは思うのですが、そうすることによって若い世代の意見は、私達よりもっと下の世代の意見は、もらえるチャンスは広がるかと思っています。

稲田市長

ひとつのアイデアとして検討させていただければと思います。でも、それはおっしゃる通りだとも思います。

若い人たちには、集まりに出てきて意見を言ってくださいと、そうやってもなかなか意見を言うてはもらえないですからね。そういう人たちの意見をもらうためにはSNSを使うというのが大事なのですが、あまりにも炎上しない形

でどうしたらいいのかというところも課題ですね。ありがとうございます。

武田委員

議論する場の設置の必要性ということであれば、間違いなく必要だと思っています。ただ、その議論する場に参加するメンバーであるとか、規模であるとか、そういったものが今は全く想像つかないので、どういうものにしたらいいかはわからないのですが。

学校の保護者世代の様子を見たり聞いたりすると、最近特に気になるのは、ひとり親世帯がすごく多いような、比率が上がっている気がするのです。データを見ているわけではないのですが、やっぱりひとり親世帯というのは、教育云々よりも日々食べさせていくということに精一杯で、親は子どもが学校から持ち帰ってきたプリントも見ないとか、そういった世帯もすごく多いのです。「そんなの聞いていない」というふうに、他の親から聞いて初めて知った、そんな紙見ていないとか、そういう話もやはり多いです。私の知り合いにもひとり親世帯はありますけれども、やはりいろんな問題を抱えながら生活しているので、そういった方でもパッと目につく先ほどのLINEなどもそうですが、そういったものを上手に活用しなければいけないのだらうと思います。

そういった人の意見も、むしろ拾わなければ本来いけないのだらうと思うのですが、そういった方の多くはタウンミーティングのような場に出てくる時間の余裕すら、おそくないのですよね。そういった方の意見を得るにはやはりLINEというツールはすごくいいのだらうと感じます。

稲田市長

ありがとうございます。そうですね。やっぱりこの人たちの、この世代の方の声の取り方として、もうちょっとその声の取り方などについては、本当によく考えていかなくてはいけないと思います。

稲田市長

少なくとも、教育環境を議論する場の設置に関しては、その体制についてはこ

れから考えていかなければならないと思いますが、教育委員の4名の皆様ともに、「設置すべきである」だと思います。いずれにしてもその議論では多分、さっきのまとめの中の7、8についての結論まで出すくらいの、何もしないのか統廃合するのか、あるいは学区を見直すとか、学校選択制の話も含めてですけれども、最終的な結論までもっていくような議論の場になろうかと思います。

そういった議論の場を設置していくということで、教育委員の皆さんは、その方向で異論はないというように捉えてよろしかったでしょうか。

教育委員一同

はい。（教育長、教育委員一同、頷いて口々に返事。）

稲田市長

ありがとうございます。

それでは、今回の議題である「教育環境を議論する場の設置の必要性」につきましても、「必要である」ということで、その体制も含めて我々の方でも議論し、また教育委員の皆さんとも議論させていただくことになろうかと思います。

また、教育委員会会議に諮ることになるのですよね、正式には。この場で「設置する方向になった」ということで、教育委員会会議が正式決定の場になるというようにお聞きしていますので、そちらの方でのご議論をよろしくお願ひしたいと思います。

一応これで結論は出たのですが、せっかくの機会ですし、遠藤先生の方から今までの議論で聞いた感想やコメントなど、あるいはその他諸々ご意見をいただければありがたいと思いますが、よろしいでしょうか。

遠藤教授

はい。フレーズで言うならば「未来の作り手を育てる」というのが今の教育の使命になっているわけです。その背景にはいろんな社会状況があります。

例えば、学校をこれからどうするかと言ったとき、「適正化」という問題にぶち当たったときに、何をもって適正というのかという議論が、当然そういう会議

の場では必要になってくると思います。そのときに当然今回のタウンミーティングで取り上げられたような「教育環境の整備の必要性があるね」、「具体的にはこういうことだね」といったようなことは出ます。そして、それとともに、適正化する機能は、教育効果を上げなければ駄目なわけです。今よりもより良くなる。これをやっぱり目指す必要があるわけです。

それぞれの市町村によって違いがあってもいいと思うのですが、できる限り子どもたちにはこういう教育環境にしていくことが良いのだという、ある意味でその確信といいますか、確証みたいなものを探っていく必要があるのです。それはすごく極めて困難な仕事かと思います。

実際に数字だけ見れば10年先はとんでもない数字で、私は今の大学の仕事柄、よくわかっているのですが、教員の確保がこれだけ取り沙汰されていますけれど、もう実はいないのです。学生自体の数もそうなのですが、これから先、先生が足りないから学校の規模を考えなくては駄目だ、といったような議論さえも、ひょっとしたら出てくる可能性もあるわけです。

いろんな要素がありますが、とにかく今、見附の児童生徒にとってどういうベースによって考えてあげる必要があるか。子どもに少子化の問題を考えろというのは、これは酷であり非情なことであるので、それはできないと思いますが、教育委員の皆さんからも出ましたように、少なくとも若い学生のレベル、大学生のような方々の声もしっかりと反映させながら、それから未就学の保護者であったり、今学校に通うお子さんをお持ちの保護者であったり、あるいは地域の方であったりと、そういったような構成をやっぱり考えていかなければいけないと思います。

何よりもそのことによって、例えば今日も話が出ましたが、いじめ不登校対策に適応できるのか、今日的な教育課題に対応できるのか、そういったような構想も含めた論点整理が必要になってくるというふうに思っています。

以上です。

稲田市長

ありがとうございます。

そういった、今、ご指摘のあったような論点を忘れずに入れながら、最終的な結論を導いていけるように検討していければと思います。

1点、先ほどのコメントのときにお答えし忘れていた点がありまして、子どもたちの数が少なくなっていてびっくりしたというご意見が多かった部分について、市民の皆さんにも知っていただかなければいけないことだったかと思えます。いずれにしても、少子化、減っていくことに対してできるだけ抑制することも含めて、市はしっかりと頑張っていきたいと思えます。ただ、その現状に合わせた学校の在り方を考えていく、これは並行してやっていくべき取り組みであると思っています。

そちらの方も頑張っていきたいですし、データのことで、1つだけ自慢できることを言いますと、令和4年10月から5年の10月までの出生率が、見附市は県内で第1位でした。（「おお、すごい」の声あり。）

これについては、なぜかという点はよくわかっていないのですが、データ上では一応そうっており、見附市にとってよかったなど、これまでの子育て施策の効果によるというのもあるかもしれませんが、いずれにしてもそういった出生率の話もあるし、見附に転入してくる子育て世代、子どもたちがいる、あるいは見附にずうっと残っていただける、そんなまちにしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

事務局長

最後に、教育長からも一言お願いします。

渡邊教育長

本当に皆さんから貴重なご意見をいただきました。

タウンミーティングでの議論、あるいはご意見を受け止めていただいて、今後、見附市がどういった小学校、中学校を目指していけばいいのか。それは見附市がこういうコンパクトなまちだからこそ議論できる部分があるのではないかと、私はそういうふうに思っています。

見附市だからできる教育環境づくり、学校づくりというものについて、今後どういった体制、どういった建て付けでやっていくかということについては、さらにまた検討が必要かと思えますけれど、具体的な方向性が出せるような場を今後大事にしていくということを皆さんからご理解をいただいたと思っていますので、それを受け止めた取り組みを今後、事務局の方でも検討していきたいと思っていますところ。貴重なご意見をいただきました。

また今後、定例の教育委員会等の中でご意見をいただくことになると思いますが、様々な視点からご指摘いただければありがたいと思っております。

本日はありがとうございました。

事務局長

どうも、ありがとうございました。

ここで議題は終了とさせていただきます。スムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。

4 閉会

事務局長

これにて令和5年度第1回総合教育会議を閉会といたします。

本日は長時間にわたりご議論いただき、ありがとうございました。

15時36分 閉会